

富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

埼玉製作所 (産業機器カンパニー)

事業概要

[2010年3月31日現在]

所在地 〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410

土地面積 143,438㎡

建物面積 92,061㎡

従業員数 527人

主な事業内容 ロビンエンジン、エンジン発電機など



トップメッセージ



執行役員
産業機器カンパニープレジデント
上野 康男

私たちは、事業活動のあらゆる段階を通して「地球温暖化防止」「省エネルギー」「廃棄物や環境負荷物質削減」に、全製作所一丸となり積極的に取り組むことで、地球環境保全を推進し、豊かな未来の実現を目指します。

地域社会とのかかわり

埼玉製作所は、1995年に稼働を開始した、当社では一番新しい製造拠点です。地域行事への参加、製作所見学の受け入れ、クリーン活動などのさまざまなコミュニケーションを大切にしています。また、自動車製造会社として交通事故撲滅をリードしていくことが社会的責任と認識し、毎年交通安全教育を実施しています。

地域社会とのコミュニケーション

当製作所では、生産工程を中心とした工場見学のほか、教育を主体とした環境型工場見学や社会体験学習なども実施しています。



北本市内中学生の社会体験学習



工業高校5年目教諭対象の研修

当製作所では朝、正門前の道路で通学児童の交通指導を実施しています。また、北本市による「びかびかきたもとおまかせプログラム」に参加しており、工場周囲の清掃活動を行っています。12月には交通指導が評価され、北本市内小学校の「ありがとう集会」に当社従業員が招待されました。



12月 感謝の手紙と素敵な首飾りをいただく当社従業員



毎月1回開催「びかびかきたもとおまかせプログラム」による清掃活動

当製作所では、子育て支援、交通安全活動なども行っています。



10月 3回目となる「お父さん応援講座」が開催され、お父さんの子育てについて教育を受けました



12月 鴻巣警察交通指導課に協力いただき開催した交通安全講話会

環境保全の取り組み

グリーン調達活動

産業機器カンパニーは、世界トップレベルの環境配慮型汎用エンジンを製造・提供するため、『地球にやさしい部品調達』を常に心掛けています。部品に含まれる環境負荷物質の削減はもちろん、サプライヤーの皆さまと協力して部品の設計段階までさかのぼり、グリーン調達活動に取り組んでいます。最近の事例としては、鍛造部品の熱処理廃止によりCO₂削減とコストダウンを同時に実現しました。また、軽量化や加工数の削減、リサイクル材の積極採用など限られた資源の有効活用を心掛けています。

現在、汎用エンジン業界は、中国勢の台頭など激しい国際協力が繰り広げられていますが、ロビンエンジンは優れた耐久性と環境性能によって差別化を図り、その価値をお客さまに認めていただけるようカンパニー一丸となってこれからも取り組んでいきます。

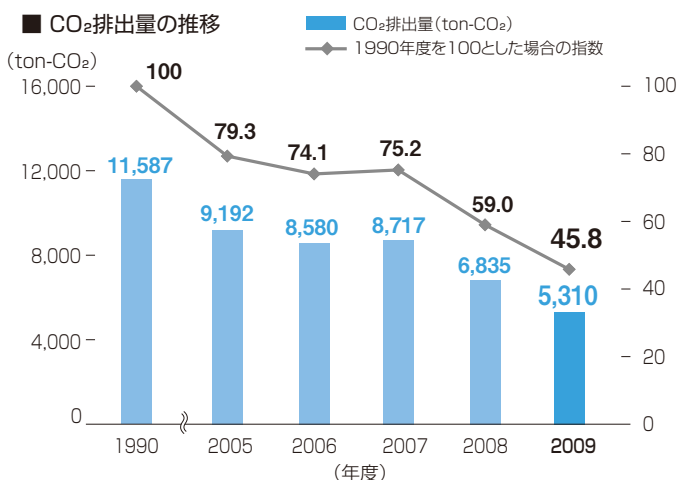
地球温暖化防止、省エネルギーへの取り組み

当所のCO₂排出量は1990年度比50%以上の低減となっています。

当所で主に使用されるエネルギーとして、電気、ガソリン系、LPGがあります。2009年度はゼロベースで見直しを行い、対応が遅れていたLPG使用量削減に取り組みました。LPGは、焼入職場のガス浸炭炉、食堂厨房、蒸気ボイラーへ送られ、蒸気ボイラーは工場棟2階運転場暖房、集中洗浄機用に使用されています。NHK(無くす・減らす・変える)の手法に沿い、十分なテスト結果によりLPGは自然気化だけでも足りることが確認できたので、強制気化装置の使用廃止、ボイラー運転時間の最適化選定、洗浄機タンクへの断熱シート貼りを行うなどして、夏場のLPG使用量20%削減を達成しました。

本改善は、2009年度業務改善優秀事例発表全社大会で発表しました。

2010年度は、さらに改善を進めて昇温時のみLPG、保温は電気ヒーターを使用するハイブリッド熱源化に取り組んでいきます。

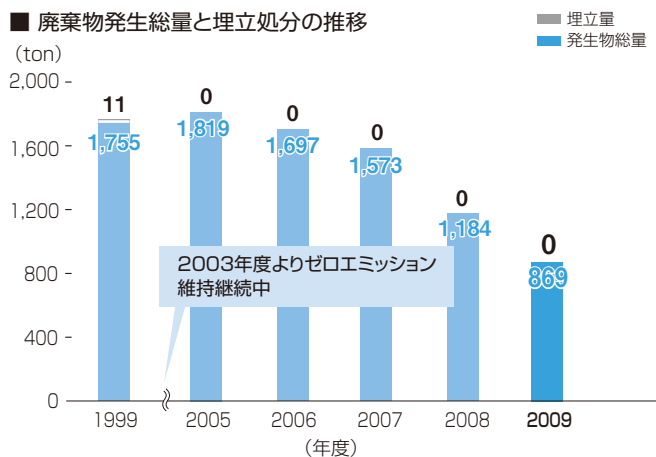


2009年度業務改善優秀事例発表全社大会の様子

ゼロエミッションへの取り組み

■ リターナブル鉄製パレット ～ずっと前からエコでした～

製品を出荷するために使用する梱包材はお客さまに届いた時点で役目を終え、廃棄物となってしまいます。しかし、傷や衝撃から製品を守り、大切にお届けするためには、十分な強度を有する梱包材が必要です。その結果、一般的にはダンボールの梱包材を使用し、大量の廃棄物を発生させることとなります。



当カンパニーの製品の約半分は鉄製パレットで出荷しています。この鉄パレットは1台で製品の種類により4~9台を積載可能で、繰り返し使用でき、ダンボールのように廃棄物になりません。また、梱包・開梱の作業性がよく、お客さまからも大変好評をいただいています。当カンパニーでは30年以上にわたって鉄パレットを使用しており、約13,500トンもの廃棄物を削減してきたこととなります。



一方で、鉄パレットはお客さまとの間を行き来するため、使用回転率を高めることが課題となります。このため、比較的近距离で行き来の頻繁なお客さまには積極的活用を図り、遠距離のお客さまには容積効率・作業性を考慮したダンボールの集合梱包も併用するなどの使い分けも行っています。

今後も、鉄パレット、ダンボール共容積効率向上、廃棄物削減に向けた取り組みを進めていきます。

公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

2009年度には、下水道放流のn-ヘキサン抽出物測定値で自主基準値*1を超える値が1回発生しました(北本市条例の基準値は超過していません)。本件に関する是正処置状況などについては2010 CSRレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過・苦情を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

*1
当社では大気・水質・騒音振動全ての測定結果について、法令基準値に20%上乗せした自主基準値を設定しています。

■ 水質関係測定結果

下水道放流、北本市条例

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8.2	6.6	7.7
BOD	600	480	400	94	186.6
SS	600	480	240	54	153.4
n-ヘキサン抽出物質 (動植物油)	30	24	28	3.9	10.7

pH:水素イオン濃度
BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】pH除き、mg/ℓ

■ 騒音・振動関係測定結果

[騒音単位: dB(A)、振動単位: dB(Z)]

	測定時間帯	規制値	自主基準値	測定数	測定値
騒音関係	朝、夕	50	49	1	41~49
	昼	55	54	2	47~54
	夜	45	44	1	41~44
振動関係	昼	60	59	1	32
	夜	55	54	1	<30

■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

[単位: kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	1,205	12			1,193		
43	107-21-1	エチレンジクロール	798	0			798		
63	1330-20-7	キシレン	6,457	42			6,415		
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	855	3			852		
227	108-88-3	トルエン	9,575	166			9,409		
299	71-43-2	ベンゼン	430	19			411		
合計			19,320	242	0	0	19,078	0	0

沿革

1943年 3月 中島飛行機 大宮製作所開設、海軍機体生産開始
1946年 6月 富士産業(株) 大宮工場、船外機エンジン生産開始
1950年 8月 大宮富士工業(株)設立
1953年 7月 富士重工業(株)設立
1970年 2月 ロビンエンジン生産累計100万台突破
1985年 7月 ロビンエンジン生産累計1,000万台突破
1995年 4月 埼玉製作所稼働開始
1999年 5月 埼玉製作所サイトとしてISO14001認証を取得
2002年 3月 埼玉製作所ゼロエミッション達成
2010年 3月 富士重工業としてISO14001統合認証を取得



お問い合わせ先

産業機器カンパニー 総務課 TEL 048-593-7755
FAX 048-593-7790

富士重工業株式会社 2010 CSR

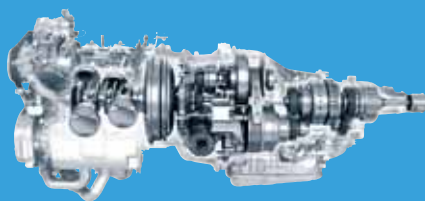
Site Report

東京事業所

事業概要

[2010年3月31日現在]

所在地	〒181-8577 東京都三鷹市大沢3-9-6
土地面積	158,147㎡
建物面積	69,173㎡
従業員数	1,084人
主な事業内容	自動車用エンジン、 トランスミッションの研究開発、実験



トップメッセージ



常務執行役員
東京事業所長

宮脇 基寿

近年、企業の社会的責任(CSR)に対する関心が高まるなか、当社では企業の社会的責任は正に企業活動そのものと理解し、環境保全・コンプライアンス・社会貢献などに、積極的に取り組んでいます。

東京事業所では、スバル車のパワーユニット(エンジン・トランスミッション)開発を担うサイトとして、走りと環境安全性能を高い次元で両立させるために、たゆまぬ努力を続けています。

自動車の環境負荷を左右する重要なポジションにあることを自覚するとともに、住宅地に隣接する都市型事業所を強く意識しながら、環境に配慮した開発や事業活動に心掛け、環境保全や公害防止の取り組みを強化しています。

これからも、燃費や排気ガスの性能向上、クリーンエネルギー自動車の開発などを通して、環境にやさしいクルマづくりを目指し、「クリーンなパワーユニット」を提供することで、社会に貢献していきます。

地域社会とのかかわり

私たちは、住宅地に隣接する”都市型事業所”として、周辺地域の皆さまとのお付き合いを大切にしています。ともに豊かな社会を創造するために、安全防災体制の整備や、地域行事・クリーン活動に取り組むとともに、次世代を担う人材育成の一助として、事業所見学を通して小学生の皆さんの社会科授業をお手伝いしています。

地域社会とのコミュニケーション



1月 近隣小学校の児童(計456名)を招いて開催した事業所見学会



10月 社会科授業支援として多摩市内の小学校で出張授業を開催



4月 もしものときに備え、新入社員(90名)が救命講習を受講



1月 近隣の小学生(約200名)を招いて当社硬式野球部による野球教室を開催



10月 三鷹市住民協議会会員を招いて開催した環境関連施設見学会



5月、11月 三鷹警察署に協力いただき二輪車安全運転教室を開催

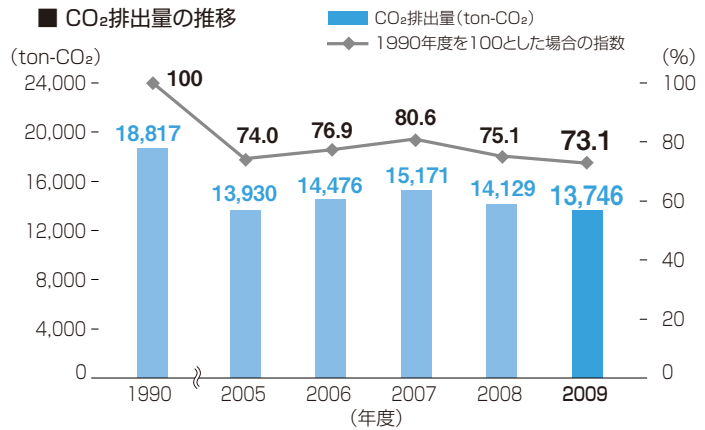
環境保全の取り組み

私たちは、自動車をはじめとする総合輸送機器メーカーとして、「地球環境問題への対応は経営における重要課題」と認識し、環境保全の取り組みを進めていきます。

地球温暖化防止への取り組み

CO₂排出量を、2010年までに1990年実績比22%の削減を目標に取り組んでいます。

今後さらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



Close Up

環境対応型事務本館が完成

11月に、地上5階建ての事務本館が完成しました。この建物は、太陽光発電や窓際照明の自動調光など、各所に環境への配慮を取り入れています。

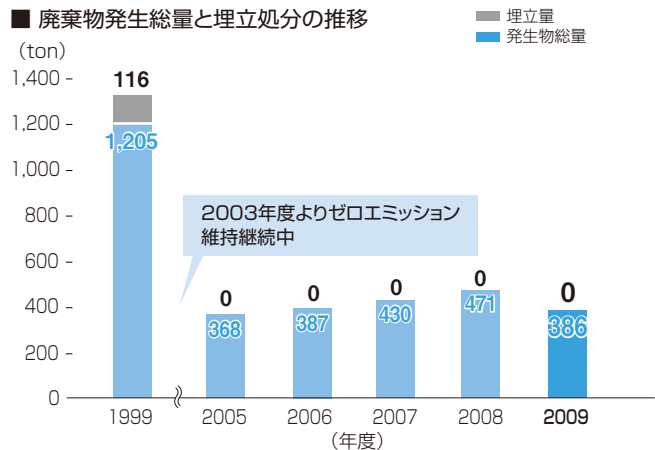
また、屋上は将来の緑化に備えた構造となっています。



ゼロエミッションへの取り組み

2003年に、ゼロエミッションを達成しました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量の削減に向け努力していきます。



公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

しかしながら2009年度には、所内通路に少量油分を漏洩などの構内環境事故が3件発生しました。本件に関する発生状況や是正処置などについては2010 CSRレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過・苦情を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

2009年度の環境測定結果

大気・水質すべての測定結果は、法令はもとより当社で定めた法令よりも20%厳しい自主基準値を順守しています。

■ 水質測定結果(三鷹市公共下水道)

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.9~8.4	8.4	7.2	8.0
BOD	300	240	240	2.2	86.0
SS	300	240	240	5	62.4
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	4未満	4未満	4未満
n-ヘキサン抽出物質(動植物油)	30	24	19	4	5.4
全りん	16(8)	12.8	12.7	0.4	2.9
全窒素	120(60)	96	70.3	4.8	24.9
溶解性マンガン	10	8	0.03	0.01	0.02
シアン	1	0.8	0.01未満	0.01未満	0.01未満

pH:水素イオン濃度
BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】pH除き、mg/ℓ

■ 大気測定結果(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	65	52	45	45
	ばいじん	0.3	0.24	0.001	0.001

NOx:窒素酸化物
【単位】NOx:ppm、ばいじん:g/m³

■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

[単位:kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	13,937	0.379			13,937		
43	107-21-1	エチレングリコール	2,912				2,912		
63	1330-20-7	キシレン	63,602	1.525			63,600		
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	8,756	0.049			8,756		
227	108-88-3	トルエン	173,369	14.218			173,355		
299	71-43-2	ベンゼン	5,201	1.548			5,199		
合計			267,777	17.718	0	0	267,759	0	0

沿革

- 1941年 5月 中島飛行機 三鷹研究所設立
- 1955年 4月 富士重工業(株) 三鷹製作所となる
- 1958年 2月 スバル360用空冷エンジン生産開始
- 1975年 8月 レオーネ用エンジン(SEEC-T)生産開始
- 1982年 2月 製造部門の群馬地区移転がスタート
- 1989年 2月 東京事業所に名称変更
- 1996年 10月 スバル開発本部ISO9001認証取得
- 1999年 3月 事業所内でのエンジントランスミッションの生産を終了(研究開発に集中)
- 2004年 1月 東京事業所サイトとしてISO14001認証を取得
- 2010年 3月 富士重工業としてISO14001統合認証を取得



お問い合わせ先

東京事業所 総務部 TEL 0422-33-7010
FAX 0422-33-7777

富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

本社 ※1

新宿サイト

所在地	〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2
土地面積	1,600㎡
建物面積	7,254㎡
従業員数	552人
主な事業内容	スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門



大宮サイト

所在地	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町1-854-1
土地面積	3,644㎡
建物面積	4,267㎡
従業員数	49人



スバルアカデミー

所在地	〒193-0941 東京都八王子市狭間町1460
土地面積	10,397㎡
建物面積	13,378㎡
従業員数	42人
主な事業内容	総合研修センター



本社はスバルの商品企画、マーケティング、販売およびコーポレート部門などから構成された複合組織です。社内外コミュニケーションを重視し、自分たちにできる目の前のことから取り組んでいます。

※1 「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティング、販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイト、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売、ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイト、当社従業員および販売特約店などの教育を行う宿泊施設を備えた総合研修施設のスバルアカデミーサイトの3サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

地域社会とのかかわり

地域社会とのコミュニケーション

■ エコキャップ回収活動

スバルでは2009年度よりペットボトルのキャップを回収し、NPO法人を通してポリオワクチンを途上国へ寄贈する活動に参加しています。2010年2月に第一回目となる回収を行い、約46,000個のキャップを寄贈することができました。これは約58名分のポリオワクチンとなり、途上国へと送られます。また、このキャップを焼却処分した場合と比較すると363kgのCO₂を削減したことになります。



エコキャップ専用回収箱を各階に設置



第一回目に回収されたエコキャップ約46,000個

■ モータースポーツ業務における社会貢献

2010年3月、当社従業員が中学校の生徒を対象に講演を実施しました。講演は今回で5回目となります。二部構成になっており、第一部はクルマを取り巻く環境とスバルの技術面・モータースポーツについて説明し、ラリーパーツに実際に触れる機会を設けました。第二部はSTI (株)の従業員と全日本ラリードライバーによるラリーカー開発やラリー参戦体験談が語られました。この活動は企業とモータースポーツのイメージ向上のみを目的としたわけではなく、本物のモータースポーツ車両に触れることで、正しいモータースポーツの理解とクルマ離れが問題となりつつある若者の新規ファンの獲得を意識しました。さらに、実体験を生徒目線で講演することによって、夢に向かって努力することの大切さも伝えることができました。

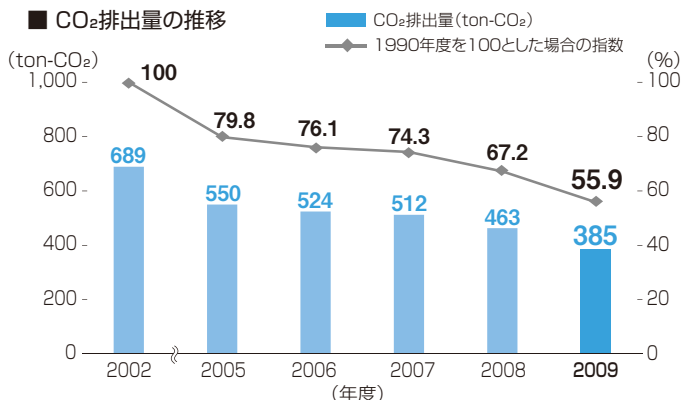


環境保全の取り組み

地球温暖化防止への取り組み

2009年度のCO₂排出量は、約385ton-CO₂となり、2008年度比約17%の削減ができました。これは「エコオフィス活動」の名称で活動してきた従業員一人ひとりの省エネ意識の浸透や、車両デモ運行の見直しなどを進めた結果です。

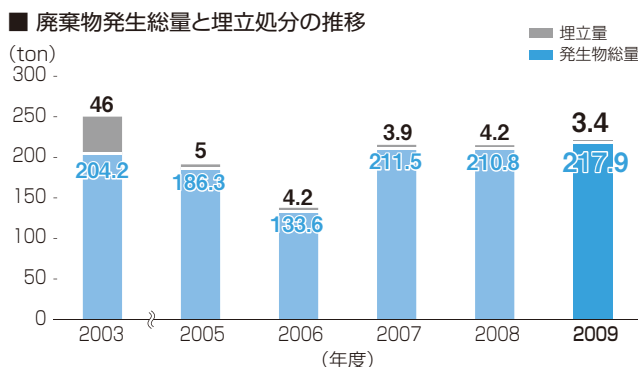
今後もさらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



ゼロエミッションへの取り組み

2009年度は廃棄物発生量は217.9トンとなり、2008年度比約3%の増加となりました。これは不要となった販促材料(紙類)の多量廃棄(2008年度比12トン増)が影響しています。全体のリサイクル率は5年連続で90%以上をキープしており、埋立量は3.4トンと過去最小となりました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量・埋立量の削減に努力していきます。



Close Up ライトダウンキャンペーン参加

当社は環境省が主催する温暖化防止のための「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に参加しています。この活動は照明を消すことでいかに照明を使用した生活に慣れているかを実感し、地球温暖化問題について考える活動です。2003年度から毎年続けて実施されており、当社は2009年度からの参加となります。2009年度は6月20日と7月7日の20:00～22:00の2時間、屋上のライトを消灯しました。

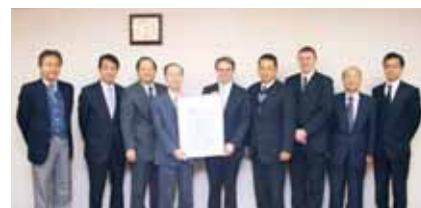


環境マネジメントシステム

2009年度、ISO14001の事務局として全社統合認証を取得しました。環境マネジメントシステムの適用範囲にスバルアカデミーを加え、本社3サイトとしての活動を開始しました。



2月 EMS改善事例発表会



3月 審査機関を招いての統合認証授賞式

沿革

- 1953年 7月 富士重工業(株)設立 本社 東京都新宿区角筈2-73
- 1954年 5月 本社 千代田区丸の内2-18 内外ビルに移転
- 1966年 1月 本社 新宿区西新宿1-7-2 スバルビルに新築移転
- 2005年 3月 本社サイトとしてISO14001 認証を取得
- 2010年 3月 富士重工業としてISO14001 統合認証を取得

お問い合わせ先

本社 総務部 TEL 03-3347-2111
FAX 03-3347-2015